

idea

ニュースレター「アイデア」

2023.10

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 一般社団法人久保川イーハートブ自然再生研究所 主任研究員 佐藤良平さん（後編）
- 3 | 団体紹介 | アラトプロジェクト
- 5 | 地域紹介 | 中里10民区（一関）
- 7 | 企業紹介 | 有限会社 岩山商会（藤沢）
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴③ ‘多様性’の難しさ
- 9 | センターの自由研究 | いにしえの道ファイルNo.1「花泉～気仙沼②」



今月の表紙 【一関市民俗資料館所蔵品】

米が貴重だった時代、米のかさ増しをするために、大根などの具材と一緒に炊く「かて飯」が一般的でした。「かて飯」に入れる具材を適当な大きさに切るための道具が「かて切り」で、気仙沼エリアでは「大東エリアの人から買った」とされる「かて切り」が残っているそうです。「箕」の他にも、当地域から気仙沼方面に行商にいった道具があるようです。（自由研究）

idea

発行 いちのせき市民活動センター
せんまやサテライト 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: <https://www.center-i.org/> メール: center-i@tempoon.ne.jp

お知らせ

<p>情報 ◆ 「くぼかわ里山日記」 随時更新中</p> <p>本誌「二言三言」で紹介した「一般社団法人久保川イーハートブ自然再生研究所」では、「久保川イーハートブ世界」の日々の様子をブログ形式で紹介しています。美しい里山景観や、多種多様な生物や植物を紹介しているほか、岩手日日新聞社で連載中の「里山スケッチ」で取り上げた内容の詳細やこぼれ話などもご覧いただけます。</p> <p>下記で検索するか、右のQRコードからもご覧いただけます。</p> <p>ブログ名:くぼかわ里山日記 URL:http://blog.livedoor.jp/kubokawablog 問合せ:0191-29-3020(代表)</p>	<p>募集 ◆ 「人形劇ラビット」 会員募集</p> <p>人形劇を通して子どもたちに笑顔を届けることを目的に、主に市内の幼稚園や子育て支援の場で、子どもや親子を対象にした公演を年4回程開催している「人形劇ラビット」では、人形劇に興味がある方、舞台の大道具や楽器演奏をしてみたい方など、一緒に活動してくれる仲間を募集しています。下記活動日であれば見学は自由です。詳しくはお問い合わせください。</p> <p>活動日:毎月第2・4土曜日 時間:10時～12時 場所:なのはなプラザ3階 研修室 (一関市大町4-29) 問合せ:090-8685-5701 (代表・沼倉)</p>	<p>情報 ◆ フリースクール「虹の学園」 開校のご案内</p> <p>令和5年2月28日付けで設立した「一般社団法人 虹パーク」では、不登校児童生徒などの受け皿として、一関市花泉町の花泉小学校跡地を活用し、フリースクール「虹の学園」の開校準備を進めています。フリースクール生徒や賛助会員、スタッフの申込等を随時受け付けています。詳しくはQRコードを読み込むか、下記までお問い合わせください。</p> <p>「虹の学園」開校予定年:2024年4月 運営者:一般社団法人 虹パーク 問合せ:090-4479-9469 (代表理事・熊谷)</p>
<p>イベント ◆ 「室愉会」プレゼント 「むろねドライブインシアター」 (10月2日から申込開始)</p> <p>「室根まちづくり協議会」では、室根の若者団体「室愉会」が企画運営を行う「むろねドライブインシアター」を開催します。</p> <p>車に乗ったまま映画鑑賞ができる屋外映画会で、音声は車載ラジオから受信。先着25台の事前申込制です。詳しくは下記まで。</p> <p>日時:10月21日(土)18:30～上映 会場:一関市役所室根支所 南側駐車場 参加費:無料 上映作品:長靴をはいたネコと9つの命 申込期間:2023年10月2日(月)～12日(木) ※定員に達し次第、受付終了 問合せ&申込:0191-64-2347 (一関市室根市民センター内)</p>	<p>イベント ◆ SL清掃イベント 参加者募集</p> <p>一関市立一関図書館では、図書館横に展示している蒸気機関車の保全維持を行うとともに、「SLのある図書館」として市内外の多くの方に知っていただくため、蒸気機関車の清掃作業イベントを開催します。詳しくは下記まで。 ※要申込(図書館HPからも申込可)</p> <p>日時:2023年10月14日(土) 10時～12時(雨天決行) 会場:一関図書館脇 SL前広場 内容:SLの清掃作業(埃はらい、油の塗布など) / 参加者に対する参加証、記念品の配布 / SL運行当時の制服を着用し、写真撮影 ※3歳以上が対象 申込締切:2023年10月7日(土) 問合せ:0191-21-2147 (一関市立一関図書館)</p>	<p>情報 ◆ 第10回 「新垣勉おしゃべりコンサート」 開催延期</p> <p>令和2年から開催を延期していた「第10回新垣勉おしゃべりコンサート」は、今年度も新型コロナウイルス感染症が増加傾向にあることから開催を延期します。</p> <p>最後(第10回)のコンサートを、生で多くの中学生に届けたいという実行委員会の総意から、安心して参加してもらえる環境、快く協力していただけの状況を待つという判断をしました。</p> <p>延期日程等は決まり次第(来年)改めてお知らせします。</p> <p>問合せ:090-5231-4333 (中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会 実行委員長 吉田恵子)</p>

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「こんなところにも生き物が」



「久保川イーハートブ世界」の中に位置する「知勝院」。敷地内にある遠方利用者向けの宿泊施設「玉露庵」には、よく見ると虫のシルエツトが！久保川イーハートブ世界にちなみ、「床下換気口」を虫型にしたものです。事務所に声をかければ、見せていただけます。



旧町村別の人口動態等を共有します。

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54057	-66	24541	-25
花泉	11938	-22	4705	-4
川崎	3222	1	1277	-1
千厩	9798	-17	4110	3
大東	11840	-2	4909	4
東山	5845	-12	2274	-2
室根	4362	-3	1794	2
藤沢	7057	-23	2775	-5
一関市全体	人口 108119	前月比 -144	世帯数 46385	前月比 -28
	出生数 43	前月比 9		

2023年9月1日付 (2023年8月31日現在 住民基本台帳より) ※外国人登録者含む

174 / 108,119 佐藤良平

「一般社団法人久保川イーハトープ自然再生研究所」主任研究員として久保川流域の生態系保全活動等に取り組む傍ら、岩手県が委嘱する「環境アドバイザー」としても活動中((公財)日本生態系協会による「こども環境管理士」2級資格保有)。「岩手日日新聞」で月2回連載する「里山スケッチ」は去年で10年目。昭和62年東京都生まれ、花泉町在住。



一般社団法人久保川イーハトープ自然再生研究所 主任研究員 佐藤良平 × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

第110回

本当の「自然の豊かさ」とは ~生物多様性の「質」を高めて【後編】~

約10kmに及ぶ河川流域規模としては、日本一状態が良いと言われる「里山の景観」と「生物多様性」がまとまっている「久保川イーハトープ世界」。「自然の質」の「劣化」を食い止め、昭和初頭から昭和40年代頃の景観・生物多様性に再生すべく、各種取り組みを行っています。「生物多様性」を守っていくことが私たちの生活にもたらすこととは、いったい何なのでしょう(2回シリーズの後編)。

小野寺 そもそも佐藤さんは東京都の出身ということですが、なぜ一関に？

佐藤 この地域での自然再生活動は、平成12年に知勝院の千坂げんぼう氏が始めたのですが、早々に東京大学の保全生態学研究室(現・中央大学)に協力要請をしたそうなんです。同研究室の鷲谷教授が実際にこの地を訪れ「これはすごい。すぐに研究員を派遣します」という展開に。当時、私の恩師の息子さんが鷲谷教授の研究室におり、紹介を受けたんです。

小野寺 もともと自然や生物に携わっていたんです。

佐藤 子どもの頃から興味があったのですが、東京には自分の求める自然がないので、小学生の頃には地方に住みたいと思っていました。なので岩手のこの地を紹介され、すぐに決断しました。平成23年の4月からここで活動しています。保全生

業はそのため的手段でしかなくて、ゴールではないのに……。

佐藤 森林も、根が浅い杉から、地中深くまで根をはる広葉樹に戻すことで、土砂崩れなどの自然災害を食い止めることができます。昔に戻すというわけではなく、多様性を高め、昔の人たちの知恵を思い出すことは、様々な課題解決につながる可能性があります。

小野寺 「元に戻す」ことに力を入れるのではなく、「今守れるものは守っていこう」という考え方ですよ。

佐藤 一度失ったものは戻せませんから、これ以上壊さないように、ですね。「生態系サービス」と言つて、本来我々は自然から様々な恩恵を受けているんです。それが自然と離れた暮らしになったことで気づけなくなりました。人間の口に入る食卓の90%以上は生物です。そういう意識が薄れてますよね。

小野寺 コメがないIIスーパーに買いに行く、ですからね。田んぼに意識は向かないか……。

生態学研究室の学生も継続して研修に來ていますよ。

小野寺 具体的にはどのような活動に従事しているんですか？

佐藤 活動は多岐にわたりますが、ずっと継続しているのは生物の生息状況調査とウシガエルを中心とした侵略的外来種の防除で、毎年約100か所のため池に捕獲用のカゴをかけています。その中でも特に生物多様性が残されている約20か所を重点的に整備します。ウシガエルやアメリカザリガニなどは1日に4kmは移動できるので、重点的に保全したい重要なため池にウシガエルが侵入しないよう、防衛ラインを張るイメージです。

小野寺 ウシガエルは生態系にどのような影響を？

佐藤 動くものはなんでも食べようとします。オタマジャクシのうちにはブラックバスやライギョなど、他の外来種に食べら

佐藤 幼児教育の中でも、自然の中の学びや経験が感情や身体の発達、健康に結びつくと言われている場所では、五感に刺激を与える「色」や「匂い」なども豊富だと思えます。ちなみに、都会の子どもたちを自然体験で受け入れることもありますが、岩手の子どもと、都会の子どもと、正直ほとんど反応に違いがないんです。

小野寺 岩手の子どもたちも自然に触れていないということ？

佐藤 そう、あまり経験がないので、都市一極集中を防ぐために、都会からの受け入れも行う反面、一関の子どもたちにもこの地を知ってもらい、自然が人間の生活にとってかけがえのないものなんだということを、子どものうちから教えていくのがすごく大事だと思っています。

小野寺 田んぼを所有していても田んぼ経験がないという人も増えていきますし、子どもはもちろん、50代60代なども改めて関心を持ち、本当の意味で「自然が豊かな一関」と言えるようになりたいものですね。

れてしまうこともあります。大きくなればほぼ無敵です。

小野寺 最近、ウシガエルが道路にひかれていたのを見かけなくなっただけです。

佐藤 ウシガエルを抑えるブラックバスやライギョが増えているということも関係します。ウシガエル、ブラックバス、アメリカザリガニの3者の中で一番強いのはブラックバスです。オタマジャクシもザリガニも食べてしまうので、なので、駆除する順番を間違えると大変なことになるんです。捕食圧の関係で、ブラックバスを先に駆除してしまうと、ウシガエルとアメリカザリガニが爆発的に増えてしまいます。

小野寺 専門的な知識がないと、個人レベルでは難しいですね。

佐藤 外来生物法に違反しないようにしなければいけないので、大変です。例えばオオハングソウなどの特定外来種に指定された植物は、完全に枯れるまで移動させてはいけないんです。刈るタイミングも重要で、種がついてから刈るくらいなら、

刈らない方が良いでしょう。でないと逆に増やしてしまいます。

小野寺 重点対策外来種になっているセイタカアワダチソウは、秋の観賞用に輸入されただけあり、秋の風物詩のようにされている側面もありますが、やはり自然界への影響はある？

佐藤 根っこから他の植物の成長を阻害する分泌物を出します。最終的には自分たちも自滅しますが、また出てくる。それからアレチウリの花の蜜は、スズメバチの大好物なので、花が咲く前に刈った方が良いでしょう。

小野寺 ガードレールや道路標識に絡まっているヤツ！専門家の正しい情報を正しく出して全的に取り組むべきですね。

佐藤 他市町村ですが、生物多様性保全の地域戦略を作っている事例もあります。そうした行政レベルでの取組みがあると、我々も活動しやすいです。

小野寺 一関市も最近では自伐型林業に注力していますが、その先が本当は重要で。どんな森林にしていきたいのか。自伐型林

※3 特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とした法律。問題を引き起こす海外起源の外来生物を「特定外来生物」として指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制し、特定外来生物の防除等を行うこととしている。

※1 鷲谷いづみ。日本の生物学者。東京大学大学院農学生命科学研究科元教授(〜2015年3月)、中央大学元教授(〜2020年3月)。絶滅危惧植物の生態、保全方法を研究しており、外来種の生態系、人間への影響についても先駆的な研究を行う。
※2 須田孫七(故)。民間の昆虫学者。自然科学児童書の監修や執筆を多数手がけ、東京大学総合研究博物館に約10万点の昆虫標本を寄贈し、同研究事業協力者を務めた。

団体紹介

アラトプロジェクト

オートバイ愛好者(特にバイクショップ「CHOPPER」の愛好者)を中心に、チャリティーを目的とした2つのイベントを企画運営。核となる約5人のメンバーに加え、オートバイイベントの際には多い時で約70人がスタッフ(無償)として従事。

TEL 090-6622-8028(代表・荒井)

写真：令和5年8月に開催し、約400人が参加したチャリティーツーリングイベントでの集合写真。



毛色の違う2つのイベントの共通点

毎年6月、花泉町で約20年に渡り開催されている「演芸会」。股旅舞踊に特化した演芸会から始まり、現在は「花泉大演芸会」として、股旅舞踊の他に日本舞踊・マドロス舞踊・大衆演劇・オペラ・演歌など、様々な「演芸」を一挙に楽しめる機会に発展しました。

「本番までの準備が大変で、やめようかなと思うこともあるが、帰りに『楽しかった』『来年も頼むよ』と言われると弱くてね」と、苦笑いを見せるのは、同イベントを主催する「アラトプロジェクト」の代表・荒井供実さんです。荒井さんは叔父が開催してきた股旅舞踊の演芸会を継承し、令和5年が荒井さんとしては5回目の開催。自身は舞踊の世界に縁はありませんが、それを逆手に取り、普段は同じ舞台には立つことのないジャンルの演者たちにオフアール、観客の裾野を広げています。同会が主催するイベントにはも

「娯楽」と「チャリティー」をつないで

アラトプロジェクト

う一つ「東北ウオンテッドバイクツーリング(CHOPPER東北)」というオートバイ愛好者向けのイベントが。このイベントは令和5年8月で12回目を数えます。全く毛色の異なるこの2つのイベントに共通するのが「チャリティー目的」で開催しているということと、スタッフ(メンバー)の多くが「オートバイ愛好者」であるということ。これまでの寄付額は合計300万円にも上ります。

全国唯一！チャリティー目的のオートバイイベント

きっかけは平成20年の岩手・宮城内陸地震。今では同会イベントの要となっている菅原秀一さんの義母が土石流により行方不明となりました。仕事で親交のあった荒井さんは、バイク仲間にも声をかけ、再捜索のための義援金を募ります。「その時の気持ちをお返ししたい」と思い、東日本大震災発生を受けて荒井さんが動き出した時から参加しています」と、振り返る菅

原さん。震災直後から被災地に物資を届け続けていた荒井さんが、チャリティー目的のツーリングイベントを企画したのは、平成24年5月でした。「福島県福島市のハレー屋さんを目的地にツーリングすれば、その周辺や町の潤いに繋がるのでは、と。300人以上に賛同していただき、会場となった果樹園にも喜んでもらえました」と、手応えを感じた荒井さん。

何もなくなった浜に多くの人が集う光景に涙を流す人も多かったと言います。「来て欲しい、という要望がある場所を目的地にしている。当市の花と泉の公園(ぼたん園)でも2回開催しました。回を重ねるごとに共感者やスタッフが増えていっている」と、荒井さんは活動の広がりを実感しています。

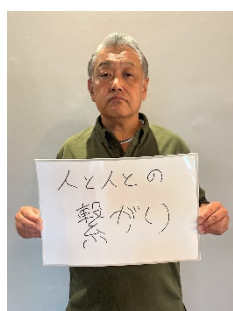
「やんちゃな大人」たちによる「地域貢献」

この時は10人の仲間で10万円ずつ出資しての開催でしたが、翌年からは「スタッフ(メンバー)は1円も出さず、身体と時間だけを提供してもらおう」と決心。個人・企業などからの協賛金と、参加費含めたライブチケット(後述)を一般販売。必要経費以外(スタッフは弁当のみ)は開催地や被災地の義援金に回す「チャリティーありき」の運営です。3回目の開催地となった宮城県女川町では、何もなくなってしまう浜を目的地に設定。女川町役場の協力のもと、約500人がツーリングで集結しました。このツーリングは、モーターサイクルチームでロックバンドでもある「COOL'S」のリーダー・佐藤秀光氏が先頭となり、目的地には特設のトラックステージにて「COOL'S」のライブも開催。オートバイ愛好者だけでなく、地元住民にも活気を与え、

「チャリティーありき」の2つのイベントを毎年開催する裏には、オートバイ愛好者たちが「良い年の取り方をしよう」という想いがあります。悪印象で見られがちなオートバイ愛好者ですが「だからこそやる」と、荒井さん。「俺たちでもできる、という背中を見せたい。仲間意識は人一倍強く、ネットワークもすごい。佐藤秀光さんのように『やんちゃな良い大人』の背中を見せることで、良い年の取り方ができるように向けてあげる」と続け、そのために、「未来ある子どもたち(18歳以下)は参加費無料」としています。演芸会では、寄付金を市社会福祉協議会に寄付するだけでなく、近隣福祉施設の利用者を無料招待するという地域貢献も。「補助金を使わないのかと

Q.活動の「原動力」は？

代表



A. 人と人との繋がり

あらい ともみ
荒井 供実さん

家業は牛乳店。亡き母が股旅舞踊ファンだったこともあり、叔父の演芸会を継承。オートバイの世界では知られた存在で、佐藤秀光氏とは20年以上の付き合い。

現場責任者



A. 出会い

すがわら しゅういち
菅原 秀一さん

ゴール地点で参加者を受け入れるため、先に現地入りし、現場で指揮をとる重要ポジション。交通整理、駐車誘導、会場設営など、大勢のスタッフをまとめます。

よく言われるが、一度も使ったことがない。我々は自分たちの手でできる範囲のことをするのみ。娯楽の提供がチャリティーにつながる、という仕組みを作っているだけ」と、「良い年の取り方」を体現し続けます。

- Photo



バイクイベントの寄付は目的の地及び直近で災害があった自治体へ。令和元年は当市と北海道厚真町へ、各21万5千円を寄付

令和元年は一関市にも



令和5年度のツーリング先は気仙沼。当市のみならず、全国からオートバイ愛好者が集まるため、スタッフも60人体制！

今年も気仙沼へ

gallery -



多様な出演者
股旅舞踊の大御所・宮野浅太郎氏はじめ、若手の大衆演劇スターなど、幅広い演者たち。花泉ゆかりの演者も多数出演。



会場設営も自分たちで
約300人が来場するのは花泉総合福祉センター。椅子の設置など、重労働な事前準備も、メンバーの無償奉仕です。

地域紹介

中里10民区(中里)

行政区は「中里10区」。近隣にはJAいわて平泉一関中央店、イオンスーパーセンター一関店などがあり、中里地区内では世帯数が一番少ない23戸83人が暮らす。区長、副区長、会計、監事、東班班長、西班班長(2班体制)で構成される。



左の写真：中里地区民運動会での集合写真(令和元年)

治水対策で戸数が半減

かつて中里10民区は、「上大林」「下大林」の小字で構成され、50戸150人ほどが暮らしていました。磐井川沿いの平坦な土地だったため、度重なる水害に悩まされてきましたが、昭和47年、建設省(当時)から発表された一関遊水地計画の素案で、下大林は第一遊水地の整備区域内に移動対象となりました。昭和51年頃から移転が開始され、同民区に残ったのはわずか24戸(現在は23戸)。中里地区内の最少戸数となりました。

「当民区だけでなく、この地域一帯は水害常襲地帯だったため、各家には舟が常備されていたが、治水対策が進み、舟を所有している家は少なくなりました。また、水害を経験した人たちが少なくなっています。今の姿だけを見れば、『安全安心な地域』『暮らしやすい地域』と思えるかもしれませんが、当民区では防災意識を低下させないために、水害だけでなく、いつ

小さな民区だからこそ、交流を大切に

くるか分からない地震や火事など、災害への防災意識を一人ひとりが持つ機会を作っています」と、区長の小野寺公夫さんは語ります。

備えの大切さを伝える取り組みとして、一斉清掃の際に発電機の点検を実施し、令和2年度には民区独自の防災マニュアルを作成。豪雨など、避難指示が発令される可能性がある状況下で取るべき行動や、発令後の流れ、対応などが明記されており、いざという時に備えています。

共通の楽しみは「野球」と「お酒」

「この民区は野球とお酒が好き。な人たちが集まっている」と笑う公夫さん。昭和54年、上大林に住む野球愛好家たちを中心に「上大林倶楽部」が結成されますが、メンバーの高齢化などもあり、現在は近隣地域からの加入も受け入れられています。

それでも、昨年行われた「第52回県早起き野球大会一関市予選」

中里10民区

一関

策で戸数は半減したものの、住民同士の交流が絶えないよう各種事業で築いてきた関係性を、これからもコンパクトな民区だからこそできるカタチでつなぎ続けます。

- Photo

gallery -



1年のご多幸を願って
ほぼ全戸から参加する「御日待」。集会所に集まり、年祝いも兼ねて御祈祷していただきます(写真は平成29年)。

住民総出の草刈り



みんなが快適に通行できるように、民区独自事業として年3回実施している草刈り。綺麗な沿道は同民区の努力の賜物です。

メインイベントの一つ



住民だけでなく、お盆に帰省する人たちも楽しむ「サマーフェスティバル」。トラックの荷台が特設ステージです。

有志が出動して雪かき



積雪量が多かった3年前から、民区内を通る道路の雪かきをする有志が自然派生的に集結。若者も活躍しています。

では見事に優勝し、県大会へ進むなど、民区の壁を越えて活躍しています。

さらに、中里地区民運動会(コロナ禍で3年中止)では、中里地区内最少戸数でありながらも総合優勝10連覇という快挙を成し遂げるなど、団結力の強さには定評が。

副区長の佐藤和弘さんは、「戸数が少ないので人集めは苦労するが、声をかければ若者たちも参加してくれる。そうした機会に若者と顔見知りになり、そこから自然派生的に『暑いから飲む』と個人宅に集まって『生ビール大会』をしたこともあった。現在は生ビール大会はしていないが、何か行事をしたときの打ち上げにはお酒を用意し、若者との『飲みにケーション』を大切にしている」と、若者の巻き込み方の秘訣を語り、「我々のような上の世代が逐一教えなくても、若者たちはお酒の場で学び、それがきっかけで民区行事に関わってくれる。コンパクトな民区だからこそできることもかもしれない」と続けます。

各種事業で交流づくり

1月に新年会と年祝い、祈禱を兼ねた「御日待(おひまち)」、8月に「サ

マーフェスティバル(コロナ禍で自粛中)、春・秋の一斉清掃などの事業を行う同民区。加えて、同民区近隣にはJAいわて平泉一関中央店やイオンスーパーセンター一関店などの施設が立ち並び、車や人通りが多いことから5・7・9月に施設周辺の草刈りをほぼ全戸参加で実施し、住民だけでなく、そこを訪れる人も気持ち良く過ごせるよう環境整備にも力を入れています。

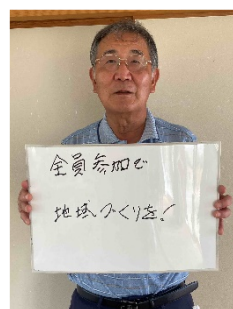
公夫さんは、「車や人通りが多いため、ゴミのポイ捨てがある。捨てられているゴミは記録として撮影後、こちらで処分しているが、住民たちが気持ち良く生活ができるように注意喚起はしていきたいね」と苦言を呈しながらも今後の取り組みについて考えます。

25年ほど前までは40歳未満が加入する「若夫婦会」があり、積み立て旅行をしていたことも。「大林長寿クラブ」会長の小野寺光男さんは、「昔は各戸に若夫婦がいて、若夫婦のOB会というのもあった。若夫婦会↓OB会↓老人クラブという流れが当たり前だったが、今では老人クラブへの加入者(60歳以上)だけが揃っている」と民区内の高齢化に悩みながらも「いきいき教室は全戸からの参加があり、参加率がとても良い」と話します。

幾度とない水害を乗り越え、治水対

Q.集落の自慢は何ですか？

区長



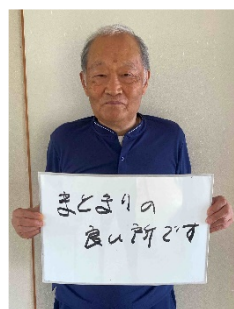
おのぞら きみお

小野寺 公夫さん

前区長が体調不良により任期途中で辞任したことを受け、区長に(8年目)。陸前高田市出身。中里まちづくり協議会の副会長も務める。

A. 全員参加で地域づくりを!

大林長寿クラブ 会長



おのぞら みつお

小野寺 光男さん

令和5年度に会長就任。コロナ禍以降、同クラブの活動は自粛中ですが、「研修旅行が楽しみ」と話します。生まれも育ちも上大林。

A. まとまりの良い所です

藤沢 有限会社 岩山商会

藤沢町を拠点に、北は花巻市、南は宮城県北エリアでサービスを展開する「リースキン(レンタルマット・モップ、エアコンや換気扇等のハウスクリーニング、工業用ウエス、トイレトペーパーやエタノール消毒液を含む環境衛生用品、水の宅配)」と、「エスプチ(全自動エスプレッソマシンのレンタル、コーヒー豆販売)」、「Crager's(クレイガーズ)奥州水沢(ボルダリングジム、ボルダリング用品販売)」など、主に3事業を展開。昭和50年代初期から現在地で事業展開し、平成2年「有限会社岩山商会」を設立。平成23年に現代表の岩山成恭さんが2代目に就任し、事業をアグレッシブに拡大させています。

すべては地域で暮らす人々の「健康」のために

店舗や工場、一般家庭などの玄関マットやモップなどのレンタルを行う「リースキン」。リースキン東京支店のオープニングスタッフとして勤務していた前代表取締役の岩山成丸さんは、昭和40年代半ばに独立し、代理店となり、東京都や千葉県、埼玉県などのエリアでサービスを提供していました。昭和50年代半ばに藤沢町(当時)に帰郷すると同時に、同町を拠点に同様のサービスを展開。当時は好景気で、両磐地域でも店舗や工場が増加。それにともない同サービスのニーズも増えました。リースキンの東北本部での修行を終え、長男で現代表取締役の岩山成恭さんが同社に入社したのが平成16年。同年10月に新潟県を中心に発生した新潟県中越地震の報道を見て「今提供しているサービスは地域密着型。局所的な災害が起きたら事業継続が困難となる」と考え、新たな事業も模索することに。そこで目を付けたのが「エスプレッソマシン」のレンタルを提供するオフィスコーヒー事業。「この地域にもっとコーヒー文化を根付かせたい」と考えた岩山さんは、同事業

「モップ」から「コーヒーマシン」へ

のノウハウを学び、「エスプチ」部門を開設します。

差別化を図るため、全国どこへでもレンタル可能となるよう、当時普及し始めていたインターネットを活用し、通常のオフィスコーヒーだけでなく、イベント用の短期レンタルなどにも対応。

その後、コンビニコーヒーや手軽で安価な通販型コーヒーマシンサービスが登場により需要減の懸念があったものの、「外出せずにポタ一つで挽きたての本格コーヒーを楽しめる」という価値を認めた顧客に支えられ、今では同社の主力サービスの1つになっています。

分野の異なる3事業も、つながる先は一つ

主に3事業の展開となりましたが、コロナ禍で状況は一変。「エスプチ」部門は顧客の飲食店の休業で需要減。ボルダリングジムの「クレイガーズ」部門も外出自粛、レク需要

減で低調に……。

しかし、「リースキン」部門は、トイレ専用マットやエタノール消毒液の需要が急伸し、なんとか売上をキープ。「コロナ禍だけでなく、パブル崩壊から数年ごとに変な時期があり、その都度その困難と向き合うことで、解決策や新しいサービスを模索してきました。結果的に、衛生環境『リースキン』も、ホットとするひとときを提供する『エスプチ』も、健康寿命増進につながる『クレイガーズ』も、すべて『健康』というテーマにつながるのですよ」と岩山さんは笑顔で語ります。

「時代や社会情勢の変化、人口減少などを受け、地域の景色も変わってくる。その変化の中で、暮らしている人たちが『助かるなあ』と思うこと、あるいは今は気づいていない、健康やリフレッシュにつながることを見つけ出すことが、自分たちの使命。時代を敏感に捉えたサービスを模索していく」と、力強く語ります。



- 1 代表取締役の岩山成恭さん。
- 2 藤沢町砂子田の本社社屋外観。
- 3 同社が経営するボルダリングジム「Crager's奥州水沢」。ホールは随時更新されます。

DATA
〒029-3403
一関市藤沢町砂子田
字百目木34-1
TEL 0191-63-4232

今月のテーマ

地域運営の落とし穴③
‘多様性’の難しさ



第55話

理想と現実 ～忘れられがちな視点とは～

令和4年12月23日から、岩手県内で初となる「一関市パートナーシップ制度」の運用が開始されました。日常生活において様々な悩みや生きづらさを抱えている「性的マイノリティ」の方々の思いに寄り添い、パートナーとしての関係が尊重され、自らの意思と選択に基づいて、自分らしく生きることができる社会の実現にむけた取り組みです。

この制度は、「第4次いちのせき男女共同参画プラン」において「個性の尊重と多様性への理解の促進」を重点施策に掲げ、性的マイノリティなど、多様性への理解の促進や人権教育の充実を図ることが基礎的考え方になっていますが、この‘多様性’について、重要性は理解できるのですが、‘どのように社会で実現するか’は、ものすごく難しいと感じています。

多様性とは、生態系から働き方、文化まで、幅広い分野で語られるのですが、男女共同参画プランに掲げる多様性の場合、‘人権’を中心とした文脈です。性別、年齢、国籍、障がいの有無などの‘属性’の多様性、価値観やライフスタイルなどの‘思考’の多様性を高めていかないと、「生きづらさ」を感じる人がおり、「誰一人取り残さない」社会が実現できないからです。この考えは、ものすごく理解できます。理解できるのですが、‘どうしたらいいものか?’という現実問題もあるのです。

認知症を患っている方を支えている家族の中には、認知症による‘妄想’に悩んでいるケースも。認知症にも様々な症状がありますが、Aさんの場合、被害妄想、嫉妬妄想が強く、隣近所にお茶のみに行っても、「家族からのいじめにあっている」などの話をしているようで、その話を聞いた近所の人から確認(心配)の電話が来るのが。本人は、いたって平然を装うので、他人からすれば認知症による被害妄想とは受け取れないのです。認知症ですし、介護保険のサービスを使って……と思うのですが、要介護認定の時に限って‘めちゃくちゃ頑張ったハイレベルな対応’をして認定レベルが上がらないという「介護あるある」はよく聞く話で、「家族が我慢するしかない」というのです。



また、うつ病を患っている方を支えている家族の方は、状況の変化による症状の悪化に悩んでいます。うつ病にも様々な症状がありますが、Bさんの場合、特定の家族に対して攻撃的になり、近づくことすら恐怖だと言います。誰かに相談しようにも、特定の人以外には攻撃することがないので、理解してもらうことが難しいのです。何とかしようと主治医に相談に行っても「守秘義務があるから本人が同席しなければ対応できない」と言われ、「何もできずに我慢する、距離を置くしかない」とのことです。



一人ひとりが幸せに暮らせるように制度や支援策も多々ある福祉分野は、多様性の理解促進の手本となるようなもの。しかし、実際の制度や支援策は「本人支援」が中心になっていて、「家族支援」など、‘支える人’をカバーできていないことも……。

疾患を抱えた方を支えるのも重要ですが、一方で、疾患を抱えた方の家族が我慢するのではなく、被害を受けたり、心労が絶えない「家族」「パートナー」の抱える苦しみに対する理解を促す取り組みや支援策がないと、支える側が疲弊してしまいます。

「‘多様性社会’の理想」に「制度」が追いつかない現実は、身近な社会生活にたくさん潜んでいます。守秘義務に該当するようなこともあるため、声にできない方も多いのだと思います。

「誰一人取り残さない社会」は理想ですが、そのような社会になるためには、‘家族’や‘周囲」という‘自助領域’では到底難しく、‘公助領域’で専門的に検討し、仕組みが構築されることが必要でしょう。

声なき声を拾うことは、難解課題を拾うことにもなります。いまの時代、‘課題の連鎖’が多く、複雑なケースが多いのも特徴です。難易度にも様々ありますが、誰一人取り残さない社会の実現のためには、**見てもぬふりはできない**、強く思うのです。

花泉→気仙沼

「箕と塩を交換してもらう旅」 推測ルート

文献等を参考に、当センターとして推測するルートが、以下です。

奈良坂(花泉) → 宿部落(老松) → 日形の渡舟場 ~舟で対岸へ~ → 黄海(藤沢) → 藤沢(藤沢) → 徳田(藤沢) → 小梨(千厩) → 釘子(室根) ~1泊することも~ → 笹塞峠 → 廿一(気仙沼) → 手長山 → 鹿折地区

越えなければいけない村境は9つ(と推測)。村境の多くは峠や川などであり、約60kmの旅にはいくつもの難所があったことでしょう。我々が実際に通ってみたのが「徳田村と小梨村の村境」「小松峠」「笹塞峠」「廿一集落~手長山~金成沢~和野(全て現在は気仙沼市)」という4箇所です。笹塞峠を抜けた後のルートとして、文献では重要幹線であり鉱山道路としても活用された「落合道路(落合部落経由で旧新月村と矢越村方面を結ぶ)」が紹介されていましたが、遠回りになることと、いわゆる「気仙沼街道」に合流してしまうため、「闇取引」には危険なのではないかと推測。別のルートとして「廿一集落~手長山~金成沢~和野」を設定しました。

特筆すべきは、右項でも記載しましたが、「手長山」の「南側」を通過したことです。「熊野神勸請の路」として考えられている古道は、手長山の北側を抜ける道ですが、室根史談会の方から「とある文献に、熊野神勸請の際、『手長山に登って室根山の位置を確認した』という主旨の記述がある」という情報が。

この情報提供者が言わんとすることは、熊野神は気仙沼から室根山に向かいますが、気仙沼から手長山を越える際、北側を歩いていけば、わざわざ手長山に登らずとも室根山が見えたはずで、登って確認したということは、南側を通行していたのではないかと?ということ。気仙沼から室根山に向かうには北側を進みそうなどころを、南側から向かったとなれば、何か意味があるのではと考え、南側を試してみることになりました! その結果は……!?

総延長60キロ弱!
花泉から気仙沼まで
「箕」と「塩」を
交換しに行った道

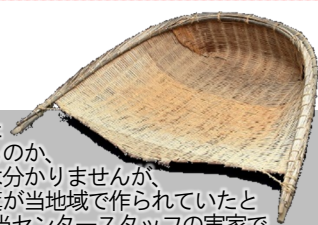


北上川には複数の渡舟場があった。日形の「中神渡船場(公設)」は「初代北上大橋」がかかったことで、昭和13年に廃止になっているが、日形の町裏と黄海の小日形を結ぶ渡舟場は戦後も続いていた。

「笹塞峠」から「手長山」の南側を抜け、「金成沢」から「和野」を通過し、現在の284号線に合流しましたが、そのルートを標高が分かる地図上に落としてみると、「鞍部(山と山を結ぶ稜線上で一番低くなっているところ)」であることがわかります。「地理院地図」の「3D」機能を使って見てみると、よく分かります。かつ、「沢沿いの道」でもあることから、「近道ということだけでなく、迷心配の少ない、安全な道」だったのではないかと推測。現在は「林道 手長洞木線」となっており、「廿一簡易水道浄水施設」なども位置しています。

※誌面の都合上、参考文献等は当センターHPにてご紹介します。

花泉から持って行った「箕」がどのようなものか、はっきりとしたことは分かりませんが、このようなタイプの箕が当地域で作られていたと思われます(この箕は当センタースタッフの実家で昭和期に使われていたもの)。



地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査!

センターの自由研究

ミッション 80 いにしへの道「花泉~気仙沼②」 ファイルNo.1

室根町・釘子地区在住の方(90代)から聞いた「花泉の人たちが「箕」を気仙沼に売りに行く時に、この辺りで1泊していった。帰りには塩と「ベト(=魚のアラ)」を持って帰って来た(のを見ていた)」というエピソードを元に、いわゆる「気仙沼街道」とは異なる「花泉~気仙沼」の「いにしへの道」を調査し始めた我々。前号では「花泉~気仙沼」を移動する背景やそのルートを考察してみました。今号ではその道中を実際に通ってみたレポートです! ※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

ゴール地点は果たして……? 「塩田」と考えれば鹿折地区ですが、「市」的なものを考えれば、内湾地区か?

鹿折地区
昭和期まで塩田があったという話も。

内湾地区
近世から昭和まで気仙沼湾の中心的機能を担っていた。

手長山 金成沢
▲廿一から林道に入る道。
▲金成沢を流れる金成沢川。この川沿いを歩いた?

赤い点線が今回通ったルート(手長山の南側/現在の「林道 手長洞木線」)
※上記地図の黄色の点線部分

手長山の北側は、尾根(沢)を何層か横断することになるのかも……

前号で紹介した通り、きっかけとなったのは「昭和20年前後、花泉の人たちが『小松峠』を通過して気仙沼に『箕』を売りに行った。小松峠を抜けたら、『宿(室根町)矢越の地名』の辺りで一泊し、気仙沼からの帰り道には、『にがり(魚の頭や臓物)』を馬に積んで帰って来た」というエピソード。

戦中戦後の食糧難の時代、配給だけでは足りない「塩」を入手するために、普段は近隣の「市」で販売し

ゴール地点は果たして……? 「塩田」と考えれば鹿折地区ですが、「市」的なものを考えれば、内湾地区か?

今ではあまり使用されない「小松峠」も、当時の花泉の人たちからすれば、小梨から室根に抜ける近道だったのではないかと推測します。さて、室根から気仙沼には、**笹森山**にある、通称「**笹塞峠**」を越えたと思われ、峠を越えた先は「廿一集落」です。この峠には室根山に熊野神をお迎えした際の「熊野神勸請の路」とされる古道もあり、近年はト

レッキングコース化を目指した整備活動なども行われています(ここで言う「笹塞峠」は、笹森山の中の、当時の峠道と思われる場所)。

その先は「手長山」を通過しますが、「**手長山**」の「**南側**」を通過したというのが、実は、今回のポイントです(熊野神勸請の路として現在考えられているのは**北側**)。

結果的に道中は推測の域を超えていませんが、文献調査及び現地調査を経て、我々が推測した「花泉~気仙沼」の、「箕と塩を交換してもらう道」の全ルートをご紹介します!